

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



1月のアルミ概況および2月の見通し (3)

予想レンジ	
LME現物後場買い	2,300-2,700ドル *
スクラップ	+10円(前月最終価格より) *
為替	130円~135円 円安
(1か月間TTM)	

■国内概況まとめ

【住宅着工戸数】

12月の新設住宅着工は、貸家及び分譲住宅は増加したが、持家が減少したため、全体で前年同月比1.7%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比0.5%の増加となった。

○新設住宅着工戸数は67,249戸。前年同月比1.7%減、3か月連続の減少。

○新設住宅着工床面積は5,328千㎡。前年同月比6.6%減、4か月連続の減少。

○季節調整済年率換算値では846千戸。前月比0.5%増、先月の減少から再びの増加。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-6.7%の14万3,290tで9か月連続マイナス。

板類は、8万7,517tの-5.5%で8か月連続マイナス。

押出類、5万5,773tの-6.5%で12か月連続マイナス。

【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比-2.3%の6万528t、4か月ぶりマイナス。

出荷は+3.5%の6万417t、4か月ぶりマイナス。

【輸出】

新地金は+82.5%の250t。

二次合金は-40.4%の1,191t。

スクラップは+52.9%の3万4,303t。

アルミ缶は-60.6%の2,110t。

【輸入】

新地金は-6%の100万261t。

二次合金は-15.2%の8万5,400t。

スクラップは+30.5%の805t。

合金スクラップは-16.8%の6,872t。

【見通し】

【自動車】

12月の自動車生産が-1.3%。1月国内販売台数が前年比+10.8%。生産が下げ止まりつつあり、それに伴い販売が回復の兆しあり、今後に期待。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向

によれば板類・押出生産合計は前年比-6.7%の14万3,290tで9か月連続マイナス。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比は-2.3%の6万528tで4か月ぶりマイナス。

出荷は+3.5%の6万417tで4か月ぶりマイナス。

世界的なコロナ策の緩和からの自動車生産の回復により今後、自動車の挽回生産が進行するものと期待される。

・アルミ輸出は中国向けや円安を受けてスクラップが増加。

・アルミ輸入は内需回復や円安からスクラップが増加。

【スクラップ景況予想】

流通(一次問屋)在庫は前月に続き欧米の金融引き締め策からLME価格が2,200-2,600ドルと安定。自動車生産は回復基調にあるが住宅着工の低迷から入荷も少なそう。

需要面に関しては世界的なコロナ政策の緩和により今後、自動車の挽回生産が進行するものと期待される

【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。①米の金融政策、

②米中関係の動向。

①に関しては、米の金融政策に関しては年末からFRBの利上げ緩和観測が台頭し直近の利上げも0.25だったが1月の米雇用統計は雇用者数が市場予想を大きく上回って伸びた。失業率も半世紀ぶりの水準に低下し、FRBが「ハト派」に転換するとの期待が薄れた為今後も引き締めが続くのではないかと

②に関しては、米国上空を浮遊していた気球問題で中国側が自国のモノと認めたことや米国側もプリンケン氏の訪中を取りやめでなく延期としたことから双方衝突は望んでないとの認識。ただ気球解析の結果、軍事偵察であれば悪化は避けられない。

これらを踏まえた2月のアルミ価格は2,300-2,700ドル(セツル)との予想。

ドル円値は130円~135円(TTM)台を予測。スクラップ購買価格に関しては+10円程度と予想している。

(「1月のアルミ概況および2月の見通し」おわり)

世界を結ぶ循環流通サービス
原料から製品まで

Ogico OHGIZAKI Corporation

銅・亜鉛・鉛・錫・ニッケル・アルミ・非鉄金属全般

株式会社 扇谷

本社 大阪市西区土佐堀町1丁目3番7号

tel:06-6444-1521~1530

東京支社 東京都千代田区神田錦町3丁目15番地

tel:03-5282-4800

名古屋支社 名古屋市中村区名駅3丁目16番22号

tel:052-571-2005

海外 シンガポール・香港・タイ・台湾・

マレーシア・フィリピン・上海・深圳・ベトナム

<http://www.ogico.co.jp>